令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷口小学校】

6	次年度への課題と学力向上策			
知識·技能	次年度に向けて			
思考·判断·表現	末評価 (3月)			

1	今年度の課題と学力向上策			
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期·頻度】	
知識·技能	〈学習上の課題〉 - 算数科変化と関係」「図形」、社会科「現代社会の仕組み」 「歴史と人々」、理科「エネルギー」において課題が見られ た。 〈指導上の課題〉 - 小理節 - 小理が反復、習熟学習を行う時間の設定が不十分であ る。	⇒	・ICTを活用した繰り返しの学習や家庭での学習を充実させていく。スタディーサブリやドリルパークを活用して復習問題を解く時間を設定する。【各単元】 ・各単元テストを行うときに、スクールダッシュボード内で授業の振り返りを行い、児童の各単元での学習の様子を確認する。不安が見られる児童へは休み時間等に個別対応を行う。【各単元】	
思考·判断·表現	<学習上の課題> ・国語科書<こと」、算数科「データの活用」において課題 が見られた。 ・自分の言葉で自分の考えを表現する力が欠けている。 〈指導上の課題〉・ ・自分の意見や考えを考える時間の確保、考えたことを表 現する場の設定が不十分である。	⇒	・授業の中で、自分の意見や解き方を考える時間を取る。ベアでの対話やルグループでの対話を取り入れ、自分の考えを表現する場を作る。 【毎時間】 ・各単元テストを行うときに、スクールダッシュボード内で授業の振り返りを行い、児童の各単元での学習の様子を確認する。不安が見られる児童へは休み時間等に個別対応を行う。【各単元】	

<小6·中3>(4月~5月)

5	評価(※)	調査結算学力向上策の実施状況	
知識·技能	(1) (2) (3)	店果分析(管理職・学年主任等) 詳細分析(学年・教科担当) 分析 <u>共有(</u> 児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	電生徒の 学力の
思考·判断·表現		結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

4	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識·技能	
思考·判断·表現	

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)

国語の「情報と情報との関係づけ、図などによる語句と語句との関係の表し方」の問題に課題がみられた。解答類型を見ると、図に書かれていることを整理し、事柄と関連付けて考えることへの理解が不十分であると考えられる。算数では、「台形の意味や性質の理解と数直線の読み取り」の問題に課題がみられた。解答類型を見ると、との辺が長い四角形や左右に向かい合った四角形を台形と捉えることへ、数直線上に示された分数を単位分数の幾つ分として捉えることへの理解が不十分であると考えられる。理料では、「身の回りの金属の性質」の問題に課題がみられた。解答類型を見ると、金属の共通する性質として、電気を通すという知識の定着が不十分であると考えられる。

思考・判断・表現

国語では、「自分の目的や意図に応じて、相手から聞きたいことを引き出すために分類したり、関係付けたりにて考える」の問題に課題がみられた。解答類型を見ると、金属の共通する性質として、電気を通すという知識の定着が不十分であると考えられる。

現書・判断・表現

思考・判断・表現

思考・判断・表現

本書・製飾がみられた。解答類型を見ると、相手から聞きたいことを引き出すために分類したり、関係付けたりにて考える」の問題に課題がみられた。解答類型を見ると、は、「分数の加法についてやグラフの読み取り」の問題に課題がみられた。理料では、「電気の回路のつくり方と植物の発芽の差異点や共通点を基に新たな問題を見いたす」の問題に課題がみられた。理楽の中で自分の考えをまとめる場、発表する場を多く観け、その振り返りを確実に行う学習を今後も継続していく必要がある。

①結果分析(管理職·学年主任等 ②詳細分析(学年·教科担当)

228			CONTRACTOR AND CONTRA
(3)	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期·頻度】
知識·技能	B 中間語	「ドリルパーク」「スタディサブリ」「問題集等のドリル類」を活用し、国語、社会、算数、理科の教科を中心に練習問題に取り組み、復習をテスト前に行っている。また自ら予習を行っている児童もいる。今後も、児童の学習状況、学習履歴を形理し、日の授業や朝学園の時間、家庭学習等を活用して、計画的に取り組む。また、スクールダッシュボードの振り返りを活用し、児童の様子を把握し、個別対応を行っている。	変更なし
思考·判断·表現	目標・f	各教科の授業の中で、自分の考えをもっための時間を十分確保している。自分の考えをノートやプリント、オクリンクに表現したり、ペア活動やグループ活動を取り入れたりして、自分の考えを発表する場や共有する場を多く取り入れることができている。話合い活動を通して、意欲的に学習に取り組むを沖膜憩を自分事として捉える姿がみられるようになってきている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)